

「看護科1年生 模擬患者を兼ねる保護者授業参観」の参観記

先日、平野先生から発信されたこの授業の案内を見て、心の中で思わず「オー」と声をあげました。＜計画の目的＞には以下のような文章があります。

「看護科の保護者は日常の授業や子供の校内での様子について関心が高く、また不安や心配も大きいと感じる。学級懇談会、看護科新聞にて様子を伝えるようにしているが、把握しきれていないのが現状である。」

学校見学会でも看護科希望の生徒には保護者が付き添う姿が多く見られます。保護者が看護師でない限り、どんな授業をしているのか想像できないと思います。だから保護者向けの授業参観を、というのはその通りです。

私が「オー」と思ったのは次の文章です。

「通常授業では生徒が患者役を行っているが、看護者役の生徒に協力してしまう傾向があり、実施後における振り返りや患者役からのフィードバックが十分でない状況がある。模擬患者として協力を依頼することで、より具体的なフィードバックが可能となり学びが深まると考える。」

確かに、看護師役の生徒がこれから行う作業の手順(例えば体位転換)を知っている患者役の生徒はどうしても協力(無意識も含め)してしまうことはこれまで参観した授業でも見られたし、フィードバックでも生徒の反省点として出されてきました。保護者の知りたいという要求と、協力してしまう患者役の生徒という二つのことを「模擬患者を兼ねる保護者授業参観」として結びつけ実現する発想力、企画力に脱帽です。



ベッドで横たわるのは患者役の保護者

「看護技術という特徴ある授業を参観すると同時に模擬患者として授業に参加していただくことで、生徒が授業に取り組む様子や看護教育に対して更なる理解と協力を得られると考える。また、保護者と共に看護を学ぶ機会としたい。」

患者役になった保護者に感想を聞いてみました。娘に介護(今日はシーツ交換)してもらった感想や、家での普段のやりとりとの違いなどです。(聞き取れない部分があり概略です)

母：おっとりした子なので普段と変わらない感じでした。(横から他のお母さんが「いい看護師さんになるわね。」との声)

母：普段うるさく私が言うので今日は言わなかった。家に帰ってから…。

父：仲間内でしているから「次何？」て聞いてて分かるので、意識している所はしらんぷりして。

もうちょっと嫌がらせをしたかったんだけど(妻に)怒られたのでできなかった。

(佐藤:どんなことを?)だから「やれ」というのを知らんふりしたりね。怒られたからしなかったけど。

今日保護者がみえた家庭では、この授業参観の話に花が咲くことでしょう。高校生くらいになると親子の会話がなかなか難しい(特に父親と娘)と言われます。会話に共通するネタがないのもその原因の一つでしょう。こうした体験型の授業参観、これからも取り組んでほしいし、普通科の方でも工夫してできればおもしろいですね。今日は102組、金曜日は101組です。看護科の新しい取り組みを観てみてください。